

# グランドデザイン

～コンパクトからインパクトへ～

と

## 政策提言

2016 JCI

一般社団法人 松本青年会議所 認承188



## 最初に

私たち松本青年会議所は、一昨年創立55周年を迎えた際に制定した「新・松本JC宣言文」の中で、「誇りある松本の輪郭を描く導（しるべ）となる」ことを宣言いたしました。松本市長選挙の実施が予定され、市政の一つの節目となる本年、宣言を実行に移すまたとない機会として「郷土の誇り創造委員会」を中心に、様々な調査・分析を進めてまいりました。現在、全国的に問題となっている超少子化・超高齢化という時代の波に敢えて逆らい、人口増とこの郷土の未来に壮大な夢を描き、本グランドデザインを発信するに至っております。本グランドデザインで示させていただいたのは、様々な可能性のほんの一部でしかありません。

「私たちの提言が正解だ」ということではなく、私たちが具体的にヴィジョンを発信することにより、この郷土に住み暮らす人々が郷土の未来に夢と関心と責任を持ち、まちづくりの議論が高まっていくことを期待いたします。

また、国の指針を含め全国的に「コンパクトシティ」が良しとされる中、もちろんそれは否定するものではありませんが、松本の宝と個性を活かした「インパクトシティ」の視点も併せて郷土の未来を描くことが大切と考えます。

私たちの発信が、この郷土の未来に一石を投じ、この郷土の明るい豊かな未来に繋がることを心より祈念し、冒頭のご挨拶といたします。

## グランドデザイン 50万人都市MATSUMOTO そして、政策提言へ

日本は少子高齢化、人口消滅都市の可能性など様々な問題を抱え、将来の行く末について様々議論されています。松本青年会議所は本年度グランドデザイン＝長期ビジョンとして、現在言われている人口減少とは真逆の発想で松本市が50万人都市になるには、手法としてなにが必要か議論を重ねて参りました。まちの宝を活かし、膨らみます。松本市の魅力を引き出し、地域を創造する。夢のあるグランドデザインを発信します。

この愛し、誇れる郷土のために。

一般社団法人 松本青年会議所 郷土の誇り創造委員会

### なぜ50万人都市なのか？

超少子高齢化社会、人口減少、消滅都市など、人口が減少すれば、働き手が減り、税収も減る。そのような未来が現実になっている。そうならば、人口を増やそう。大きな風呂敷を広げるなら、現在の松本市は約24万人いますが、その倍以上、50万人都市になったらどうなるのだろう。これがテーマ決めた理由です。

### どのような50万人都市にするのか。

50万人都市する手法として、建物インフラが思いつくと思います。それによって人口が増加し、付随して交通インフラも必要になり、住宅やマンションなど受け皿も必要となるでしょう。ただインフラ等を増やしても、松本市が魅力ある都市を失いかねません。我々が住んでいる松本市にはまちの特長である大切な宝が存在しています。現に存在する宝を活かし50万人都市する手法を考えることができれば、人口が増えていくことと同時に、より魅力ある都市なるはずです。上記のような考え方を持てば、現松本市においても必要な宝を活かす政策提言ができます。

### 50万人都市のメリットはなにか。

1. 少子高齢化や人口減少の歯止めをかけることができる。
2. 政令指定都市になり、行政サービスやインフラ整備が市で行うことができる。
3. 長野県で一番大きな都市となり、実質、長野県の中心的都市となる。
4. 我々が掲げる宝を活かした手法を行うことにより、より一層、誇りある魅力的なまちとなる。

### いつまでに50万人都市するのか？

平成26年7月4日に国土交通省は急速に進む人口減少や巨大災害の切迫等、国土形成計画（平成20（2008）年間議決定）策定後の国土を巡る大きな状況の変化や危機感を共有しつつ、2050年を見据えた、国土づくりの理念や考え方を示す、国土のグランドデザイン2050が公表された。50万人都市は国土のグランドデザイン2050に沿った形で、2050年までに人口増加させることとしました。

## 人口について

50万都市と掲げた以上人口についてふれなければなりません。

超少子高齢化といわれ、日本創成会議 人口減少問題検討分科会が、

2040年までに全国約1800市町村のうち約半数(896市町村)が消滅する恐れがあるとし、これは2010年からの30年間で、20～39歳の女性の人口が5割以上減少することが指標されている。

我が松本市はその対象にはなっていないが、他人事ではありません。

### 松本市の人口の将来推移

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
人口推移	241,680	236,370	230,632	224,037	216,780	208,978	200,744	192,008

\* 将来人口推移について：出典：2010年まで国税調査、2015年松本市統計月報（4月1日現在）

2020年以降 内閣府提供資料（国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域将来人口推計」）

2016年（平成28年9月1日現在）241,393人

上の表から2050年には192,008人となり2015年から見ると人に

人口が49,385人減る計算になる。

この人口減少は、松本市の地区別で見た場合、上位人口の鎌田地区、芳川地区の合計に近い減少である。

**市町村でいう町レベルの人口が消える事になる。**

## 34年間で50万人にするには（2050年までに）

$500,000 - 243,037 = 258,607$ 人増やす

一年間に $258,607 \div 34 \approx 7,606$ 人増やす

1年あたりの人口増加率

$7557/243037 \times 100 = 3.019\%$ を34年継続する

ちなみに東京都の人口増減率は0.53%（増加率全国1位）

産業別 1年あたりの人口増加

1次産業  $14741 - 7191/34 = 222$ 人増加

2次産業  $57960 - 28177 = 29783/34 = 875$ 人増加

3次産業  $172300 - 83763 = 88537/34 = 2604$ 人増加

分類不能の産業  $6006 - 2920 = 3086/349 = 90$ 人増加

累計 1年間に 3791人増加しなければならない。

### 我々が目指すグランドデザインは2050年を目途に

つまり就業者 = 生産労働人口をどのようにふやすのかがキーになる。

3次産業を中心に若者が都市圏に流出しないように雇用を増やし、

20～39歳の女性の人口を増やす対策をとることが必要だ。

# グランドデザインマップ

エリア4  
アウトドア企業の誘致

政策提言  
中部縦貫自動車道の早期開通



松本城を中心に  
城下町の特徴を活かし  
たまちづくり



エリア3  
浅間再興

政策提言  
浅間の再開発



エリア2  
副市街地構想

政策提言

まちづくりの発信拠点と  
なる複合型市役所



エリア1  
芸術大学の誘致

政策提言

松本が東アジアのウィーンになる



グランドデザインマップ

## エリア 1 芸術大学の誘致

松本市には3つのがく都が存在します。北アルプスをはじめ美しい山岳があるの岳都、教育の歴史・文化の香りがする学都、音楽の美しい旋律が聞こえる楽都。これだけ見ても、松本市が品格のある魅力的な宝もっているかわかります。実は50万人都市を考えると、人口を増やす可能性をもっている宝があります。それは、楽都です。それにふさわしい箱モノがすでに備わっているからです。まつもと市民芸術館、松本市音楽文化ホール、キッセイ文化ホールなど。音楽、劇を市民が身近に触れる環境があり、セイジ・オザワ 松本フェスティバルやスズキメソード、信州・まつもと大歌舞伎など国内外から人々が集まる土壌できてます。また、芸術の側面で言えば、世界的に有名な草間弥生など芸術を身近に接する環境もあります。こんな素晴らしい環境がある楽都に学都という側面を足し合わせたら、一つのインフラが生まれます。音楽、劇、芸術を含めた総合芸術大学の誘致です。あがたの森にある旧制松本高校を文化財としての魅力を残しつつ、大学でもある。これが松本市の楽都・学都の拠点であり、日本の芸術の中心になり得るまちとなれば、このまちに魅了され多く人々が住みたいまちとなります。芸術は幅広く、セイジ・オザワ 松本フェスティバルのような催しを沢山行われる環境ができるはずです。

## 政策提言

### 松本を東アジアのウィーンにする。

”音楽の有名なまち”と聞いてどこを思い浮かべますか？世界中の多くの人々が、ウィーンを思い浮かべるでしょう。では、アジアの中ではどうでしょう？アジアの中でも音楽が突出して有名な場所はまだまだありません。そこで、松本に芸術大学を創設し、市がストリートアーティスト認定制度を行ったら、まち中に音楽が溢れると考えます。ストリートアーティスト認定制度を活用し、アーティストの発表の場がまち中にいくつも出来ます。その発表の様子を市民や観光客が観覧します。そうすることで、アーティストは自分の技術を認めてもらいたい一心でもっと技術を磨くようになります。その磨かれた技術を市民は日常生活の中で聞く機会が増え、芸術に対する意識がもっと高くなります。また、県外や外国からの観光客がアーティストの発表を目や耳にすることで「松本はまち中に音楽が溢れている」と感じます。結果、松本市は自他共に認める音楽のまちになります。そうなることで、松本市に音楽を目指す人・音楽を愛する人・音楽に関係する仕事に就く人、が多く集まるはずですよ。

## エリア2 平田副市街地構想

箱モノ = 建物インフラ、このように感じる方が多いと思います。単に人を増やすためにインフラ整備が必要だと考えているわけではありません。

松本城周辺に変化がおきています。30年来の懸案であった、西、南外堀りの復元がH33年の完成を目指し、解体が進行し、博物館の移転も決まり、徐々に松本のシンボルである松本城が世界遺産を目指す準備を進めている中、その東側には松本市役所があります。耐震改修工事を終え、少子高齢化が進み、公共施設のあり方についても量より質を求めた箱モノの整理を市は行っています。ただ、50万都市を創造し、宝を活かす手法を考えると、松本城の周辺がより世界遺産にふさわしい整備が必要であることに行き着きます。

松本市役所を移転し、その跡地を松本城のたもとの城下町にふさわしい使い方できるはずで

では、どこに移転するべきでしょうか？ヒントは交通事情にあります。イオンモールが建設され始め、更なる交通渋滞の懸念も問題視されています。市役所は基本的にまちの中心にあるべきものですが、西、南外堀りの復元と同時に道路も整備され、広くなる分渋滞がより増加する懸念があります。市民サービスの質の向上を考えた場合、交通に便利な場所、バス通勤、電車、主要道路に近いなどが考えられます。実は条件を満たした場所があります。それは、平田駅の西側から奈良井川までエリアです。現在では、住宅地に囲まれた田園風景が広がっていますが、駅があり、国道19号線が近くを通っています。また、松本空港、塩尻北ICも近い。こんなに立地の良い場所はないと思います。中でも駅からのアクセスが最大の魅力です。ただ、市役所移転だけでなく、多機能の性質を持つスタジアムを建設や福祉施設など公共的役割を持つインフラ集約したいわば副市街地のような形ができれば、1局に集中したまちづくりではなく、公共及び行政機能を移転することで、よりまちの活性化に導くことができると考えます。

### 政策提言

## まちづくりの発信拠点となる複合型市役所

松本市には松本城という世界に誇れる宝が存在し松本城と北アルプスとの景観で訪れる観光客を魅了しています。

また近年ではこどもからお年寄りまで幅広い世代の方を夢中にする松本山雅FCの活躍が目を見張ります。

松本市には多くの宝がある中で群を抜く松本城と松本山雅FCを、よりこのまちの未来のために活かすことを考えた際に松本の中心を担う松本市役所の移転が必要だと考えます。

現松本市役所がある場所は松本城を中心としたまちづくりに役立つことができるはずで

今後の少子高齢化を考えたとき市役所は交通の便がいい場所であり、また市民が気楽に立ち寄れる、市民が集う場所である場所が理想と考えます。

その理想的な場所が平田駅周辺だと考えます。平田駅と隣接した場所に松本山雅FCのホームスタジアムとの複合型市役所の建設、その施設内には松本市公設地方卸売市場と

連携した地元の旬の素材をいかした旬彩松本食堂、松本市西部給食センターと連携した松本ヘルシー食堂、企業、市民が使用できる会議室、研修室を備え、また駐車場、

バスターミナルを併設することで若年からお年寄りまでより多くの市民が市役所に集まります。幅の広い年代が集まることで市役所には市民の多くの生の声が聞こえるでしょう。

多くの市民の意見はきつとこの松本を変えることと考えます。

## エリア3 浅間再興

松本市には、古くから温泉街のある浅間温泉があります。かつては路面電車が走り、賑わいのある街なみが存在しました。現在では、温泉旅館が多く存在しますが、賑わいを取り戻すまで至らない印象があります。また、各旅館、ホテル共、施設更新に費用が掛かり存続することも難しくなってきたと思います。

この古き良き温泉街に50万人都市が描く手法によって再興の道はたどれないかと考えました。

浅間温泉は個々に旅館等を営んでいます。温泉という宝を使って、浅間の地全体が一つになり、活性化し、人口が増える。このような未来があったら夢のようです。

例えば、シンガポールにあるマリーナ・ベイ・サンズのように屋上にプールを備えたりリゾートの複合施設が浅間に地区全体を覆うようにできたら、アルプスを一望する日本屈指の温泉施設となることでしょう。温泉旅館・ホテルのみならず、高層階からなる施設には若手クラフト作家が工房とショップを設けるエリア、ヒルクライムの聖地「美ヶ原」への玄関口に設けられる自転車専門ショップエリア。

シアターでは、クラシックをはじめ、ジャズや邦楽、様々な演劇など、楽都松本を象徴する公演が毎晩行われます。また、カジノ特区となった浅間温泉にはカジノが設けられ、建設資金の捻出だけでなく、カジノ税が松本市の財政を豊にします。

わくわくする松本の未来が目に見えます。





# 政策提言

## 浅間の再開発

増え続ける、老人介護施設。

浅間温泉にこれ以上の老人介護施設はいりません。温泉街を訪れるお客様の目的、それは非日常の体験。温泉風情の無い町並みと、仲の悪い温泉施設。

経営悪化や改装資金の捻出ができないことに伴う廃業や売却。今の浅間温泉は不の循環に乗っています。

建立は5世紀末とも言われる「桜ヶ丘古墳」、初代松本藩主「石川数正」がにより置かれた「御殿湯」、明治以降の文人墨客が数多く訪れた浅間温泉。

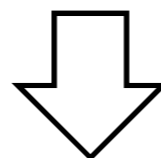
松本の奥座敷として名を馳せた地も今では風前の灯。このままでは、さらに浅間温泉は荒れ果てていきます。

### ソフトの再開発

- ・複数の施設組合の解体。
- ・再興のための思いを共有できるよう、市民を巻き込んだ事業者の意識改革
- ・空き店舗を利用したい若者への支援事業
- ・経営状況の悪い施設への経営指導、低率融資。
- ・優良な経営計画に対し、市民審査を通過した事業者への20年据え置き融資。

### ハードの再開発

- ・廃墟となった温泉施設の再開発。
- ・射的場や立ち飲み屋、粋な蕎麦屋。
- ・一部地域を潤工業地域に変更し、クラフト作家の窯などが作れる環境の提供。
- ・松本駅から浅間温泉までのトラムの整備。
- ・上田駅から浅間温泉、松本駅までの高速鉄道整備。



浅間温泉の再開発。ワクワクアサマ！

## エリア4アウトドア企業誘致

現在、中部縦貫自動車道は、松本IC～波田～安房山までの区間は現在、住民反対もあり、計画が進んでいません。

しかしながら、50万人都市を目指す場合には、中部縦貫道の全面開通は不可欠です。開通することにより、関東、関西、北陸の交通網が強化され、起点となる松本市には大きな経済発展を遂げる可能性を秘めています。物流が強化されるので、単に企業誘致をするのではなく、松本市の特性や宝を生かした経済発展はどういうものなのでしょうか？松本市には沢山の自然があり、西には上高地の含む北アルプス、東には美ヶ原高原など、自然の宝が豊富にあります。

トレッキング、登山者など、県内外からアウトドア目的で多くの観光客が訪れます。その中で、主だったアウトレット企業がこの自然を生かした環境中で、中部縦貫が開通された新村～波田周辺に誘致され、さらにはアウトレットモールができれば、松本らしい経済効果が見込めると考えます。

## 政策提言

### 中部縦貫自動車道の早期開通

今年制定された山の日の上高地などで過去に例がないくらいの盛り上がりでした。

その影響でアウトドアブランドが注目を浴びています。松本市はアウトドアの資源が数多く存在し登山客などは年々上昇傾向にあります。

そこでまだ未開発である中部縦貫自動車道周辺にアウトドアブランドの集合体であるアウトレットモールを作る事で観光客の増加、雇用の増加と経済効果も見込めます。

中部縦貫自動車道の早期開発にも大きな手助けにもなります。

アウトドアブランドの本社または支社を誘致する事も可能な農地が多くあります。今アウトドアメーカーは雇用拡大をしたりと非常に好調です。

大きい好調な企業を誘致出来れば大幅な税収アップも見込めます。企業にとっても松本市は自然に溢れているのでイメージアップにもなり双方にメリットが発生します。

中部縦貫自動車道の周辺に誘致するので輸送の分野でも北陸地方へのアクセスが容易になりますので多くの企業が手を上げてくれるはずで

また各アウトレットブランド店舗の屋上を農地として活用し農家を雇用する事を義務化する事により農地を減少することなく開発を進める事ができます。

観光客で賑わうアウトレットモールと多くの雇用を産める企業誘致、中部縦貫自動車道が一つになることで松本市は大きな成長と発展をすることになります。

全国でも例を見ない屋上農地をすることで全国へ最高のモデルケースとして発信でき松本市には多くの人が集まってくるはずで

# 最後に

---

私たち松本青年会議所はランドデザインのテーマとして50万人都市MATSUMOTOという大きな風呂敷を広げ、1年間に渡り独自に調査、分析を行い、実現可能であるか模索してまいりました。まちに何が足りないのか、私たちはきっと現状でも満ち足りている部分が存在し、多少の不安がありながらも、現実を見るところまで至らないのが実情ではないでしょうか。10月にもランドデザインを発表させて頂き、賛否両論、様々な意見を頂戴しました。私たちは市民のみなさんが意見を頂いたようにまちづくりに少しでも関心をもって頂けたことを嬉しく感じております。

大きなテーマを掲げた50万人都市の手法が20年後、30年後の未来を見据えた時、超少子高齢化が進んでいく世の中だからこそ、必要とされるものになって欲しいと思います。まちづくりは市政が全て担うのではなく、全市民も含めてオールマツモトでまちを良くしていく。こんな気持ちがあれば、このまちはもっと良くなると思います。政策提言も記載させていただきましたが、松本市が明るい豊かな社会が実現し、健康的であるまちになること祈念申し上げます。

一般社団法人 松本青年会議所 郷土の誇り創造委員会 委員長 滝澤 顕

---

